

令和8年度 福島中学校 シラバス

学 年	2	教 科	国語	担 当	阿部 菜月・松本 理香	時 数	140
-----	---	-----	----	-----	-------------	-----	-----

◆教科の目標

国語の特質を理解し適切に用い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うと共に、言葉がもつ価値を認識し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を育む。

◆評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
趣 旨	社会生活に必要な国語の知識と技能を身に付けると共に、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めたり広めたりすることができるようにする。	言葉をもつ価値を認識すると共に、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

◆年間指導計画

月	領域	単元名 【時間】	学習内容	観点別評価の規準 【知】(知識・技能)「何を理解しているか、何ができるか」 【思】(思考・判断・表現)「理解していること・できることをどう使うか」 【主】(主体的に学習に取り組む態度)「粘り強い取組を行おうとしている」「自らの学習を調整しようとする」態度	評価方法
4 月	Ⅰ 広 がる 学 び へ	【読む分野】 詩・物語文 『見えないだけ』 『アイスプラネット』 【7時間】	1 詩を読み取る。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 ◇言葉や表現が生み出している効果についても確認させる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 ◇共感できた考えや自分にはなかった考えをノートにまとめさせる。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード ² 「漢字の練習」 →二次元コード ³ 「イタイト」 2 登場人物の設定を確かめる。 ・冒頭部から読み取れるぐうちゃんの人物像を捉える。(課題1-①) ・人物どうしの関係を図で整理する。(課題1-②) ・ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加える。(課題1-③) →P27 ^{カギ} 「登場人物の設定を捉える」 →P276 ^資 「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード ⁴ 「学びの地図」 3 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取る。 ・ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉える。(課題2-①) ・「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」のはなぜかを考える。(課題2-②) ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像する。(課題2-③) ◇手紙の文面から、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえさせる。 4 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめる。(課題3) ・ぐうちゃんの考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめる。 5 学習を振り返る。 →P27 ^{言の葉}	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →登場人物どうしの関係や人物像を図式化して整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →ぐうちゃんの人物像や、登場人物どうしの関係を文章から読み取り、図にまとめている。 【主】登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
		「資料を示してプレゼンテーションをする」	1 提案内容を決める。 ・誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。 ・現状の課題を見つけ、その解決策を基にするなどして、提案内容を決める。	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →相手が自ら行動したいと思えるような言葉や表現を用いることを意識している。 【思・判・表】	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査

5月		【6時間】 →三次元コード「表現テーマ例集」 ◇相手が何をを知りたいのかを考えさせるとよい。 2 話の構成や表現を工夫する。 ・グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。 →P35「言の葉」 →P286「資」「グラフの見方／引用・出典」 ◇提示資料の情報は必要最低限に絞らせる。 ◇写真などを引用する場合は、出典を明記させる。 ・資料を提示しながら話す練習をする。 →P33「カギ」「資料や機器を活用して話す」 →P280「資」『『学びのカギ』一覧』（話す・聞く） →三次元コード「学びの地図」 ◇資料を提示するタイミングを考えたり、聞き手を意識して話し方に変化をつけたりさせるとよい。 3 プレゼンテーションをする。 ・クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする（録画する）。 →三次元コード「プレゼンテーションをする」 →P29「聞く」意見を聞き、整理して検討する」 →P35「達人からのヒント」 →P34「資」「ICT活用のヒント」 ◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。 4 学習を振り返る。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ) →重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。 【主】自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。	・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	「枕草子」 【6時間】	1 「枕草子」を音読し、古文を読み味わう。 ・新出漢字を調べる。 →三次元コード「漢字の練習」 ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を音読する。 →三次元コード「朗読音声」 ◇心に残った季節の一節を暗唱させてもよい。 ◇関連図書などを活用するとよい。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 ・P38の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 ◇P39のコラム「枕草子」を参考にしながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。「徒然草」の学習と関連させてもよい。 →P154「仁和寺にある法師」 3 自分流「枕草子」を書く。 →P39「自分流『枕草子』を書こう」 ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して音読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →現代語訳や語注を手がかりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →季節感を表すものについて、その様子が具体的に想像できるよう、語句や表現を選んで書いている。 【主】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	2 多様な視点から	「クマゼミ増加の原因を探る」 【5時間】 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →三次元コード「漢字の練習」 →P51「言の葉」 2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめる。(課題1-①) ・線や矢印を使って、文章を構成する六つの部分の関係を整理する。(課題1-②) ◇「前提」を受けて「仮説1～3」があり、それらの検証によって「まとめ」が導き出されていることがわかるように整理できるとよい。 3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。(課題2-①) →P51「カギ」「文章と図表を結び付けて読む」 →P278「資」『『学びのカギ』一覧』（説明文） →三次元コード「学びの地図」 ◇図表や写真と結び付いている箇所を本文か	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →文章を構成する六つの部分の関係を図式化して整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。 【主】積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

			ら探して線を引かせるとよい。 ◇P49の図が「仮説2」と「仮説3」を整理したものであることを確認する。 ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、筆者の考えと、自分の考えを書く。(課題2-②) 4 考えたことを話し合う。(課題3) ・筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検証結果も示したのか、考えたことをグループで話し合う。 5 学習を振り返る。		
6 月		職業ガイドを作る 【6時間】	1 題材を決め、情報を集める。 ・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。 ・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方法で情報を集める。 →P284【資】「インタビューをする」 →P285【資】「インターネットの活用」 →【二次元コード】「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ◇図書館や資料館、インターネット、インタビューなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。 ◇複数の情報源で調べる、出典を明らかにするなど、既習事項を想起させる。 2 集めた情報を整理する。 ・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。 ・目的に合わせて、情報を取捨選択する。 →P29「[聞く]意見を聞き、整理して検討する」 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P55【カギ】「多様な方法で集めた情報を整理する」 →P280【資】「『学びのカギ』一覧」(書く) →【二次元コード】「学びの地図」 3 紙面構成を考える。 ・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。 ◇タブレット端末などを用いて、紙面構成を考えさせるとよい。 →P34【資】「ICT活用のヒント」 4 紙面を作成する。 ・簡潔な文章を心がけて書く。 ・推敲し、清書する。 →P57【言の葉】 ◇見出しを付け、簡潔な文章にするよう留意させる。 5 感想を伝え合う。 ・作品を読み合い、感想を伝え合う。 ◇わかりやすかったところや、説明の順序や分量、紙面の工夫などについて考えさせる。 6 学習を振り返る。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ) →集めた情報を表や図にまとめ、整理している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →知りたいことに適した方法を考えて情報を収集し、収集した情報を分類・整理して自分の目的に合うものを取捨選択している。 【主】多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	3 言葉と向き合う	短歌に親しむ 短歌を味わう 【7時間】	1 P62「短歌に親しむ」を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →【二次元コード】「漢字の練習」 2 短歌を音読し、解説の内容を捉える。 ・歌われている情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(課題1-①) ・短歌とはどんなものか、筆者がその形式や歴史について説明している部分に線を引く。(課題1-②) 3 短歌に用いられた、表現の効果を考える。 ・それぞれの短歌に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として示されていることをまとめる。(課題2) ◇筆者が着目した表現やその効果の他に、生徒自身が着目した部分があれば、それを書かせてもよい。 4 好きな短歌を選び、感想を書く。(課題3) ・本文やP68「短歌を味わう」から好きな1首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。 ◇グループごとに1首ずつ担当したり、グループの中で各人が1首ずつ担当したりするなど、状況に合わせて活動させる。 5 学習を振り返る。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。また、情景や心情が生き生きと伝わる言葉を選んで短歌を創作している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →複数の短歌を比較し、言葉の選び方や順序にどのような特徴や効果があるかを考えている。 ・「読むこと」において、短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書いている。 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが伝わるように、学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして短歌を作っている。 【主】表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

		「言葉の力」 【4時間】 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →【三次元コード】「漢字の練習」 2 文章の内容を捉える。(課題1) ・三つのまとまりそれぞれの内容を確認する。 3 筆者の考え方を読み取る。(課題2) ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、筆者は、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。 4 筆者の考え方について話し合う。(課題3) ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどうのように考えるか、知識や経験を踏まえて話し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。 【主】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
		言葉1 類義語・対義語・多義語 語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉 【2時間】 1 P72導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について関心をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) ◇類義語には、意味が微妙に違うものや、意味は同じでも語感が違うものがあることに気づかせるとよい。 ・P73「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 →【三次元コード】「漢字の練習」 3 P74のリード文を読み、抽象的な概念を表す言葉を探す。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) 4 3で集めた言葉の類義語や対義語を集める。 ◇国語辞典や類語辞典などを活用させるとよい。 →P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」 5 言葉を比べ、用例を考える。 ・集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまとめる。 ◇下段「語感を磨く」を参考にさせるとよい。 →【二次元コード】「漢字の練習」	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →類義語・対義語・多義語の概念について、具体的な例を当てはめて理解している。 →抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。 【主】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な語句、抽象的な概念を表す語句などについて理解しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
7月	情報×の学び	デジタル市民として生きる 【4時間】 1 メディアを比べて、それぞれの特徴を理解する。 ・P76-77に示されたさまざまなメディアを、「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、評価する。 ◇教科書の例を参考に、メディアによって配信日時や情報量に違いがあることに気づかせる。 ・メディアの特徴を踏まえて、P76①-③それぞれの場合にはどれを選ぶとよいか、考える。 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P285【図】「インターネットの活用」 2 災害時の情報収集・情報の読み取りについて考える。 ・P78「やってみよう」に取り組む。 ・災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいか、また、どのように情報を読み取ればよいかを考える。 ◇「ここをチェック」を参考にさせて考えるとよい。 3 情報を受け取るときの留意点を考える。 ・P80「デジタル市民として生きる」を通読する。 ・情報の信頼性を判断するポイントについて考える。 ◇「情報の発信源」「発信日時」「情報の根拠」について考えさせるとよい。 →【三次元コード】「漢字の練習」 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →メディアが伝える情報の内容とその根拠の適切さに着目している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 (2)イ) →メディアの特徴を、表や図などにまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) →メディアの特徴を踏まえ、情報の信頼性を判断するために必要なことについてまとめている。 【主】複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

	いつも本はそばに	読書を楽しむ 【2時間】	1 教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。 2「ブックトーク」、「読書ポスター」、「読みたい本のリスト」の中から、取り組む活動を選ぶ。 ◇学校や地域の状況に応じて活動を決めてもよい。また、夏休みを利用した活動としてもよい。 3 選んだ活動に沿って、見通しを立てる。 ・ブックトークの場合は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を、魅力が伝わるように紹介する。 ・読書ポスターの場合は、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読みたい本のリストの場合は、身の回りの本の情報などを基に、読書ノートに記録する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。 4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。 ◇教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。 ◇次の教材「翻訳作品を読み比べよう」と併せて指導することも考えられる。 1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ◇人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 →三次元コード「漢字の練習」 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」やコラム「『わからない』は人生の宝物」を読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ◇学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。 3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P290資「盆土産」 →P299資「形」	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読みたいかを考えている。 【主】本や文章などにはさまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。 【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →これまでの読書生活を振り返り、より豊かにするためにできることを具体的に考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二人の翻訳者による「星の王子さま」を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて発表している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →翻訳の違いによって作品の印象が異なることを知り、その違いなどについて考えをまとめている。 【主】表現の効果について進んで考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
9月	4 人間のきずな	「ヒューマノイド」 【5時間】	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →三次元コード「漢字の練習」 →P103言の葉 2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 ・「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にとって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつのか、簡潔にまとめる。(課題1-①) ・中学時代のタクジの言動から、人物像を捉える。(課題1-②) 3 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する。 ・タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか、考える。(課題2-①) ・「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」とあるが、何が違っていて、そのことを「僕」はどのように感じているか、考える。(課題2-②) →P103カギ「登場人物の言動の意味を考える」 →P276資「『学びのカギ』一覧」(文学) →三次元コード「学びの地図」 ◇中学時代のタクジとの会話や、現在のタクジの言葉に着目して考えるよう促す。 4 作品を読んで考えたことを語り合う。(課題3) ・作品の構成や人物の言動の意味などに対する解釈を基に、この作品のおもしろさや印象に残った点について、語り合う。 →三次元コード「作者メッセージ」 5 学習を振り返る。	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。((1)オ) →登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが作品の印象にどう関わるかを捉えている。 【主】登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

		「字のない葉書」 【5時間】 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P109言の葉 →P274「語彙ブック」(結び付きに着目して言葉を広げよう) 2 二つの思い出を整理する。(課題1) ・前半と後半に書かれた、二つの思い出の内容を整理する。 ◇必要に応じて、時代状況を解説する。既習の1年「大人になれなかった弟たちに……」を想起させてもよい。 3 表現に着目して、人物の人物や心情を読み取る。 ・前半の思い出から想像される「父」の人物を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめる。(課題2-①) ・「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像する。(課題2-②) ・なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(課題2-③) →P109カギ「表現の効果を考える」 →P276資「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇前半と後半で、心情や人物の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせるとよい。 4 「父」に対する「私」の思いについて考える。(課題3) ・自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表する。 5 学習を振り返る。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ) →随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かせそうな点をまとめている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人物や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 【主】文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 【5時間】	◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 伝える相手や目的、内容を決める。 2 適切な通信手段を選ぶ。 ◇相手や目的に応じて、手紙とメールのどちらを選ぶか考えさせるとよい。 →P288資「いろいろな通信文」 3 手紙や電子メールを書く。 ・それぞれの形式に沿って書く。 ・自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。 →P110カギ「表現を工夫して思いを伝える」 →P112「推敲」表現の効果を考える →P113「言葉2 敬語」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 ◇相手や目的に応じて敬語を適切に用いたり、思いや用件が的確に伝わるように具体例を入れたりするなど、表現を工夫させるとよい。 4 学習を振り返る。	【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えている。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →相手や目的に応じて、敬語を適切に使って書いている。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えが伝わるように、具体的な説明を加えたり、表現の工夫をしっている。 【主】自分の考えが伝わる文章になるように積極的に工夫し、学習課題に沿って手紙や電子メールを書こうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	「質問で思いや考えを引き出す」 【4時間】	1 インタビューの準備をする。 ・教材文を読んで、役割を決める。 ・「今、夢中になっていること」や「最近気になるニュース」をテーマに、インタビューの準備を行う。 ・教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 →二次元コード「インタビューをする」 ◇「話し手としての準備」、「聞き手としての準備」の両方をさせる。 2 インタビューを行う。 ・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、一人5分程度でインタビューを行う。 →P116カギ「質問で思いや考えを引き出す」 →P280資「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 →P284資「インタビューをする」 ◇聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すように促す。 3 学習を振り返る。	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話の要点や全体像を考えながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。 【主】論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

10月	5 論理を捉えて	「モアイは語る」 【7時間】 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →<u>三次元コード</u>「漢字の練習」 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(課題1-①) ◇筆者の主張が書かれている段落(結論)を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえることよい。 ・問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめる。(課題1-②) 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考える。(課題2-①) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合う。(課題2-②) →P129<u>カギ</u>「論理の展開を吟味する」 →P130「思考のレッスンⅠ 根拠の吟味」 →P278<u>資</u>「『学びのカギ』一覧」(説明文) →<u>三次元コード</u>「学びの地図」 ◇本論で述べられたイースター島の事例が、地球の未来を語る上での根拠となっていることに気づかせる。 4 筆者の主張に対する意見を文章にまとめる。(課題3) ・自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度でまとめる。 ◇P127「モアイ・イースター島研究について」なども参考に、筆者の主張に対する自分の立場を明確に示させる。 5 学習を振り返る。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを捉えるとともに、より適切な根拠の在り方を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(C(1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめている。 【主】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。	【知】 ・定期査 ・ワークシート 【思】 ・定期査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
		「適切な根拠を選んで書こう 意見文を書く」 【6時間】 1 課題を決め、調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 →P14「続けてみよう」 →P282<u>資</u>「発想を広げる」 →<u>二次元コード</u>「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ・課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。 2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。 →P130「思考のレッスンⅠ 根拠の吟味」 ◇根拠と「理由づけ」についてグループ内で助言を求める場をもたせてもよい。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。 →P133<u>カギ</u>「適切な根拠を選び、構成を工夫する」 →P280<u>資</u>「『学びのカギ』一覧」(書く) →<u>三次元コード</u>「学びの地図」 →P341<u>資</u>「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などを活用して、文章の構成を検討させてもよい。 3 意見文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。 →P134<u>言の葉</u> 4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →段落のまとまりを意識して、自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり、段落の順序を検討したりしている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →根拠となる事実を具体的に示したり、想定される反論に対する意見を示したりしている。 【主】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書くようとしている。	【知】 ・定期査 ・ワークシート 【思】 ・定期査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	6 いにしえの心を訪ねる	「平家物語」 【8時間】 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →<u>三次元コード</u>「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →<u>三次元コード</u>「『平家物語』朗読音声」 2 朗読して古典のリズムを楽しむ。(課題1) ・「平家物語」の冒頭部分や「扇的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しむ。 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見送る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考える。(課題2-①) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(課題2-②) 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。(課題3) ・「平家物語」の登場人物たちの言動から読	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ) →与一や義経の言動、扇的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →「扇的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。 【主】登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	【知】 ・定期査 ・ワークシート 【思】 ・定期査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

			み取ったものの見方や考え方に対する、自分の考えを述べる。 ◇登場人物の言動を文章から引用して、考えたことを述べさせるとよい。 ◇P141「『平家物語』の世界」、P151「弓流し」の場面、P304[資]「敦盛の最期」を読んで、武士の生き方や価値観などを捉えさせてもよい。 5 学習を振り返る。 ・朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか、自分の言葉でまとめる。 ・登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か、自分の言葉でまとめる。 ・作品を読んで、現代に通じる（現代とは違う）と感じた部分などを挙げる。		
11月		「仁和寺にある法師」 【5時間】	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →二次元コード「『徒然草』朗読音声」 →P156「係り結び」 2 現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉える。（課題1） 3 本文を読み、内容をまとめる。 ・仁和寺の法師の勘違いの内容を、P155脚注の絵を使って説明する。（課題2-①） ◇仁和寺の法師と同じような経験をしたことがあるか、考えさせてもよい。 ・作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出す。（課題2-②） 4 作者の考え方について話し合う。（課題3） ・仁和寺の法師の描き方や、「少しのことにも……」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →現代語訳や語注などを手がかりにして、仁和寺の法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（C(1)オ） →作者のものの見方について、仁和寺の法師の描き方などを踏まえて考えたことを話し合っている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。（B(1)イ） →文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書いている。 【主】積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書くとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
		「漢詩の風景」 【6時間】	1 全文を通読する。 →二次元コード「漢詩 三編 朗読音声」 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇返り点や訓読のしかたを振り返るとよい。 2 漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。（課題1） ・漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取る。 3 構成や表現の効果を味わう。 ・それぞれの漢詩について、筆者が注目した構成や表現とその効果を、簡潔にまとめる。（課題2-①） ・漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果がよいと思った理由を伝え合う。（課題2-②） 4 漢詩の特徴を生かして朗読する。 ・グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果が伝わるように工夫して朗読する。（課題3-①） ◇漢詩特有の言葉遣いや調子に着目させるとよい。 ・何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合う。（課題3-②） ◇P164「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 5 学習を振り返る。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。（(3)ア） →漢文特有の言葉遣いや調子を意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（(3)イ） →解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。（C(1)エ） →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。 【主】進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	7 価値を語る	君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ 【6時間】	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 二つの文章を比べながら読み、内容を捉える。 ・筆者の着眼点や、筆者が端的に「最後の晩餐」を評した言葉に、印を付ける。（課	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。（(2)イ） →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。（C(1)エ） →文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

			題1-①) →P179<u>言の葉</u> ・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者が、「最後の晩餐」を「かっこいい」と思った理由を、本文中の言葉を使って説明する。(課題1-②) ・「『最後の晩餐』の新しさ」で筆者が指摘する「新しさ」について、本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げる。(課題1-③) 3 文章を比較し、気づいたことを話し合う。(課題2) ・「最後の晩餐」の魅力を説明する方法(説明のしかた)や、文章の書き方、表現の特徴といった観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合う。 →P179<u>カギ</u>「観点を明確にして文章を比較する」 →P278<u>資</u>「『学びのカギ』一覧」(説明文) →<u>二次元コード</u>「学びの地図」 ◇二つの文章を表に整理して観点ごとに比較させる。P179に示されている観点を参考にするとよい。 4 筆者の意図や目的を考える。(課題3) ・筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか、文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考える。 →<u>二次元コード</u>「筆者インタビュー」 5 学習を振り返る。	比較して発見したことを話し合っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。 【主】進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。	
12月	「討論で視野を広げる」 【4時間】	1 テーマについて情報を集める。 ・テーマと用語の定義を全体で確認する。 ・各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。 →P14「続けてみよう」 →P282<u>資</u>「発想を広げる」 →<u>二次元コード</u>「表現テーマ例集」 ◇賛否や是非の分かれるものを選ばせるとよい。 2 立場に分かれ、考えをまとめる。 ・立場(肯定側・否定側)を決め、意見と根拠、理由づけを整理する。 →P130「思考のレッスン」 根拠の吟味」 →P132「適切な根拠を選んで書こう」 3 グループで討論する。 ・司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。 ◇グループの中で役割を交代しながら討論を行うとよい。 →P116「聞き上手になろう」 →P183「[話し合い(進行)]話し合いの流れを整理しよう」 →P187<u>カギ</u>「互いの立場や意見を尊重する」 →P280<u>資</u>「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →<u>二次元コード</u>「学びの地図」 →<u>二次元コード</u>「討論をする」 ◇タブレット端末などを用いて、討論の様子を録画させておくといよい。 →P341<u>資</u>「ICT活用のヒント」 4 討論を振り返る。 ・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。 ・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。 ◇録画を見て振り返るようにするとよい。 5 学習を振り返る。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ○ →適切な根拠となる情報を集め、意見と根拠、理由づけを整理している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) ○ →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめている。 【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート	

1月	8 表現を見つめる	「走れメロス」 【10時間】 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →【二次元コード】「漢字の練習」 ◇初読の感想を書かせておくと、課題3で作品の魅力語る際に、学習の初めと終わりで作品の印象や自分の考えがどのように変わったかを振り返ることもできる。 2 作品の設定と場面の展開を押さえる。(課題1) ・作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分ける。 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているかを考える。(課題2-①) ・村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したかを考える。(課題2-②) ・王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したかを考える。(課題2-③) →P221【カギ】「人物像に着目する」 →P276【資】「『学びのカギ』一覧」(文学) →【二次元コード】「学びの地図」 ◇場面の展開と人物像の変化を結び付けて読み取らせるとよい。 4 作品の魅力をまとめ、語り合う。(課題3) ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 →P221【言の葉】 ◇原作(詩「人質」シラー作)を合わせて読み、構成や表現の特徴について、共通点・相違点を整理し、「走れメロス」の魅力を考える学習も考えられる。 →P179【カギ】「観点を明確にして文章を比較する」 5 学習を振り返る。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →メロスや王の言動に着目して、考え方や心情の変化を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →メロスの行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。 【主】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
----	--------------	--	--	--

		「心の動きが伝わるように物語を書く」 【5時間】 1 題材を決める。 ・日常生活を振り返り、「心が動いた瞬間」を書き出し、整理する。 →P14「続けてみよう」 →P66「短歌の創作教室」 →P282【資】「発想を広げる」 →【二次元コード】「表現テーマ例集」（「書くことのミニレッスン」内） 2 設定や構成を考える。 ・設定（時、場所、登場人物）を考える。 ・自分の心情や考えが変化した場面を中心に、あらすじを考える。 ・状況設定・発端、展開、山場、結末の流れで構成を考える。 3 物語を書く。 ・描写を工夫して物語を書く。 ・書きあがったら、推敲する。 ◇これまでに学習してきた物語や小説の表現を振り返らせ、どんな点を生かしたいかを考えさせるとよい。 ◇登場人物の呼称を一人称、三人称のどちらかに決め、書き手の視点を貫かせる。 →P204「走れメロス」 →P225【カギ】「表現の効果を考えて描写する」 →P227【言の葉】 →P227「達人からのひと言」 →P268「語彙ブック」（感覚で捉えた言葉） →P280【資】「『学びのカギ』一覧」（書く） →【二次元コード】「学びの地図」 4 作品を読み合う。 ・作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。 ・友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品のよい点や改善点を見いだす。 ◇作品評価の観点を示したワークシートなどを用意し、それに基づいて交流させるとよい。 ◇タブレット端末などの書き込み機能を活用して、助言させ合ってもよい。 →P341【資】「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((I)エ) →これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にして、場面の様子や人物の心情を表す表現を使って書いている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(I)ウ) →読み手が場面の様子や人物の心情を具体的に想像できるように、表現の効果を考えながら描写を工夫している。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(I)オ) →書いた物語を友達と読み合い、よい点や改善点を伝え合っている。 【主】粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
2月	「話し言葉と書き言葉」 【2時間】	1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ◇学校生活の話題を、簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気づかせるとよい。 2 音声の性質から話し言葉の特徴を、文字の性質から書き言葉の特徴を捉え、それぞれの伝え方の注意点や工夫について理解する。 ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉) ◇P229「生活に生かす」を用いて、SNSでのコミュニケーションを考える学習につなげることもできる。	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。((I)イ) →話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。 【主】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

		「送り仮名」 【2時間】 1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 ◇P230下段「活用のある語」では、表中の[] に活用語尾を直接書き込んでよい。 ◇活用語尾などについて、P246文法2「用言の活用」で確認させる。 3 P231の練習問題に取り組む。 ◇教材の語以外に、間違えやすい送り仮名にはどのようなものがあるかを考えさせるとよい。 →P321資「二年生で学習した音訓」 →二次元コード「漢字一覧表」	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)ウ) →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	「国語の学びを振り返ろう」 「『国語を学ぶ意義』を考え、コピーを作る」 【5時間】	1 対話を通して考える。 ・1年間の学習を振り返り、できるようになったことや、自分が変わったと思うことを語り合う。 ・「国語を学ぶ意義」を考える。 ◇P6「学習の見通しをもとう」を開いて学習した内容を振り返らせるとよい。 →P233カギ「これまでの学びを価値づける」 →P234言の葉 →P280資「『学びのカギ』一覧」（話す・聞く／書く） →二次元コード「学びの地図」 2 コピーにまとめる。 ・自分が考える「国語を学ぶ意義」を、コピーにまとめる。 3 コピーの説明を書く。 ・そのコピーを付けた意図や理由を、200～300字程度で説明する。 4 クラスで共有し、交流する。 ・作品を読み合い、学びの価値づけ方や解説のしかたについて、よいと思った点やもっと知りたい点などを伝え合う。 ◇タブレット端末などのコメント機能を活用して、交流させてもよい。 →P341資「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →これまでの学習活動における具体的な変化を抽象化してまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの考えを尊重しながら対話し、それを通して自分の考えを整理したり、価値づけたりしてまとめている。 ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →自分の作品の読み手からのコメントを通して、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 【主】粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
	「鍵」 【2時間】	1 詩を音読する。 2 印象に残った語句や表現を話し合う。(課題1) ・詩の中の印象に残った語句や表現を挙げ、感想や疑問を出し合う。 3 表現の意味を考える。 ・詩の中に書かれた「鍵」の特徴を発表する。(課題2-①) ・「鍵」によって「ひらかれる」「扉」の向こうには、どんなものがあるか考える。(課題2-②) 4 作者のものの見方について語り合う。(課題3) ・「私」は「この世」をどんな世界と捉えているのか、自分が考える「この世」との共通点や相違点を基に、作者のものの見方について考え、友達と語り合う。 ◇詩から読み取った作者のものの見方について、自分のこれまでの知識や経験と結び付けて考えさせるとよい。 5 学習を振り返る。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ) →抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や経験と結び付けて、作者のものの見方について考えている。 【主】詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート
国語の力試し	「国語の力試し」 【4時間】	1 P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →<u>二次元コード</u>「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもらうが、二次元コードから音声聞かせ、メモを取らせるほうが望ましい。 →<u>二次元コード</u>「話す力・聞く力」 2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 →<u>二次元コード</u>「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれ	【知・技】 ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。((1)エ) →類義語の意味や用法を比較し、文脈に応じてより適した語を選んでいる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ) →敬語の働きや種類を理解し、電子メールの下書きを推敲したり、文面を書いたりしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「枕草子」の原文と、二つの現代語訳を比較して読み、文章の中心的な部分を捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →「枕草子」の二つの現代語訳を比較して読み、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての野口さんの提案を論理の展	【知】 ・定期考査 ・ワークシート 【思】 ・定期考査 ・ワークシート 【主】 ・ワークシート

			の設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P36「枕草子」 →P109「カギ」表現の効果を考える」 →P29「聞く」意見を聞き、整理して検討する」 →P112「推敲」表現の効果を考える」 →P110「カギ」表現を工夫して思いを伝える」 →P113「言葉2 敬語」 →P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」	開に注意して聞き、伝えたいことを捉えるとともに、自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果を考えて電子メールを推敲している。 【主】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組みようとしている。	
--	--	--	---	---	--